

松丸裕美（熊本県熊本市）

タイトル「膝掛けとハーレー」

私の父は52歳にして現役のライダーだ。彼の相棒は黒のハーレーダビッドソン。

母は「いいトシをして」なんて言うが、こんな父は私の密かな誇りである。

父とハーレーと言えば、ちょっとした思い出がある。名づけて、膝掛け事件。

私が熊本の大学に入学して最初の秋、突然父から「明日、ハーレーでそっちに行くから」とのメールが送られてきた。次の日はバイトだったため、相談の結果、父がバイト先まで来ることに決まった。

翌日、バイトの先輩に父が来ることを伝えると、なぜか私よりウキウキして、お互いにそわそわしながら落ち着かない時間を過ごした。お昼が過ぎ、「まだ来ないね」「どんな格好で来るのかな」などど話していると、聞き覚えのある、重たく仰々しいエンジン音が近づいてきた。もしやと思って外を見ると、案の定、父のご到着である。

急いで駐車場に出ると、GパンにTシャツ、サングラスの父が、ニコニコしながらハーレーの傍に立っている。私が一体何用だったのかと尋ねると、「これをあんたにあげようと思って。」と言って、膝掛けを差し出した。私に、たった一枚の膝掛けを渡すために、大分は国東から熊本まで、片道5時間もかけてバイクをころがして来た父。私は嬉しいやら呆れたやら申し訳ないやらで、複雑な心境だった。しかも、父はすかさず「バイトしよる証拠」と言って、徐にデジカメを取り出し、私の写真を収めたのだった。そうこうしているうちに父は、帰りが遅くなるからと、慌しく支度を整え、私と、先輩と、突然のハーレーの来訪で驚いたお客さんたちに見送られながら、颯爽と走り去っていった。先輩から、「お父さんカッコイイね」と言われ、一応「全然。足短いですし」などと断りを入れておいたが、実は心の中では、「そうでしょ？」と、鼻高々に自慢していた。

もう2年以上前の話なのに、昨日のことに覚えているのは、先月帰省した時にある物を見つけたからだろう。父の部屋を掃除していると、テレビの上にあった一枚の写真。それは、あの時父が撮ってくれた私の写真だった。飾ってくれていたんだ。嬉しくて、思わず顔がニヤけてしまい、しばらくそれを見つめていた。

そう言えば、最近父と写真を撮った記憶がない。いつかハーレー2台並べて、一緒に写真撮ろうね、お父さん。